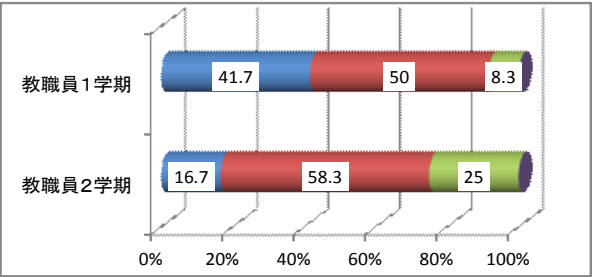
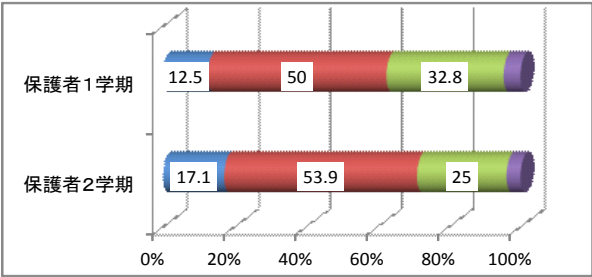
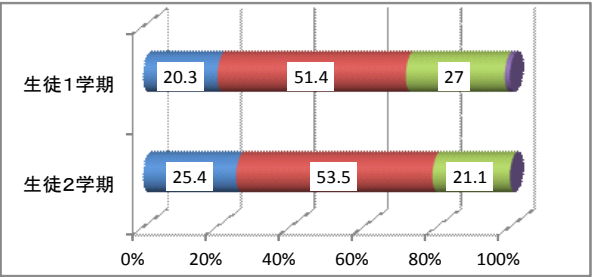


保護者様

お忙しい中、御協力いただいた学校評価アンケートの結果をお伝えします。紙面の関係で 1 部の報告となりますが、よろしくお願いします。

第 2 回学校評価の結果（抜粋）

あなた（お子様・生徒）は学校教育目標「踏み出す私（まんざらでもない私）」を達成したと思いますか。



■ 達成できた ■ おおむね達成した
■ やや不十分 ■ 達成しなかった

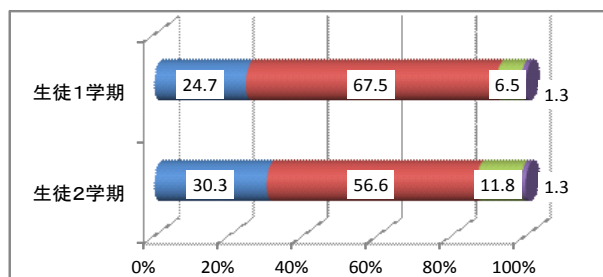
【おもなコメント】

生徒	・学習発表会では合唱をがんばった。 ・学習発表会では自分しかできないことをたくさん人にアピールできた。 ・人がやらないことを、自分がやった。 ・何事にも挑戦してきた。 ・部活動をがんばった。 ・学習発表会で、一歩踏み出し挑戦できた。 ・授業で内容が分かることが増えてきたし、自分の知識も増やすことができた。
保護者	・初めて役をもちチャレンジして、悩み、壁にぶつかりながらも、やりきった。 ・色々なことに積極的に挑戦し、努力し、自信をもった。そのことが次へとつながっていた。 ・自分自身のがんばりを自己評価できて、仲間と協力し、上級生としての意識をもった取組ができた。 ・テスト勉強をがんばった。 ・大変でも前に進もうとがんばっていた。 ・自ら生徒会役員に立候補し、自分を成長させようとしていた。
教職員	・いろいろなことにチャレンジしていると思います。 ・学習発表会や委員会活動などに積極的に取り組んでいた。 ・一人ひとり、それぞれの立場や能力に応じて挑戦をしていた。でも、生徒個々は他人との比較で自分の取組を見る傾向があるから、どうしても自己肯定感や有為感に差が出てしまう。自分自身の変化を自覚させる言葉かけをしていきたい。 ・人前で話すとき、暗記して話そうとする姿やスポーツ祭、学習発表会、合唱での協力し合う姿に、挑戦し自分や集団を高めていこうとする姿が見られた。

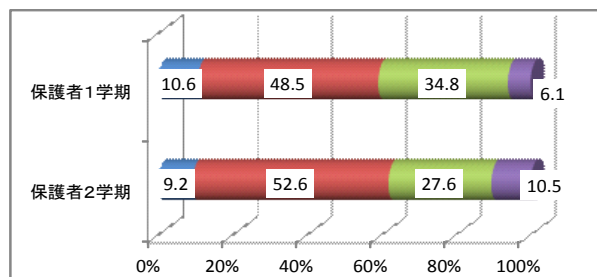
保護者、生徒とも「達成できた」が増えました。とてもうれしく思います。しかし、若干、生徒と保護者では認識度が異なるようです。学校での生徒のがんばりを伝えていくなどの工夫が必要だと考えました。教職員については、生徒たちの前向きな取組を認めつつも、「さらにこうあって欲しい」という傾向が読み取れます。

授業内容（５教科）がわかることが多かったと思いますか。

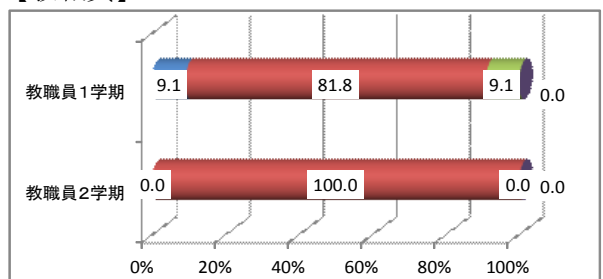
【生徒】



【保護者】



【教職員】

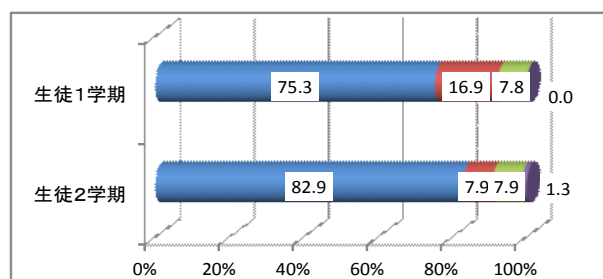


■ 分かる ■ おおむねわかる
■ ややわからない ■ わからない

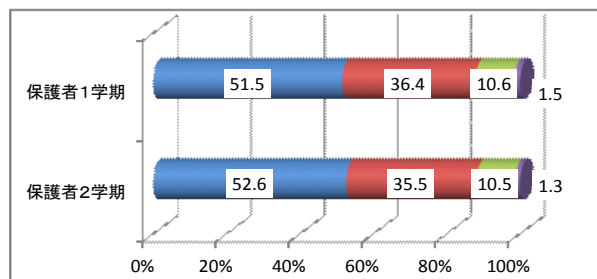
「授業内容（５教科）が分かることが多かったか。」という質問に対して、全体では 87 % の生徒が分かる（４・３）と回答しています。教職員については 100 % ほぼ理解していると回答しています。しかしながら、保護者の 38 % がやや理解できていない又は理解できていないと答えています。１学期と比べ大きな変動は見られませんが、分かったつもりになった生徒が多くおり、テスト等の結果に結びつかないことから保護者の回答が厳しくなっているのではないかと考えます。今後も基礎的な内容の定着を図る方法等を追求していきます。

宿題は家で必ずやるようにしていたと思いますか。

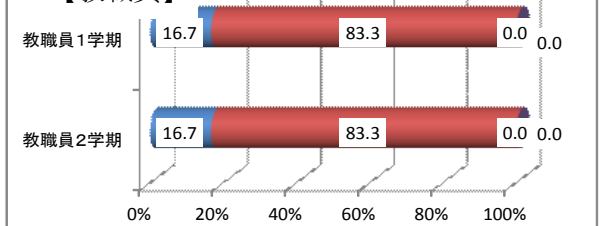
【生徒】



【保護者】



【教職員】



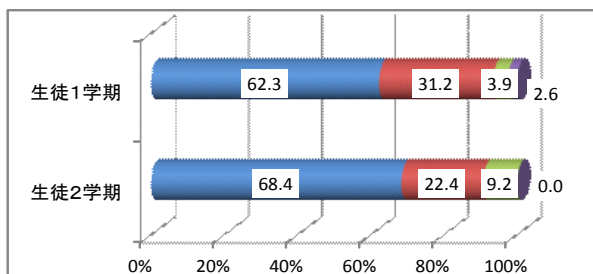
■ やっている ■ おおむねやっている
■ やややらないことがある ■ やらない

生徒は 91 %、保護者は 88 %、教師は 100 % ができていると回答しており、大きな変動は見られませんでした。家庭学習を家でやる習慣が身に付いている生徒が多いと考えられます。しかし、未提出の家

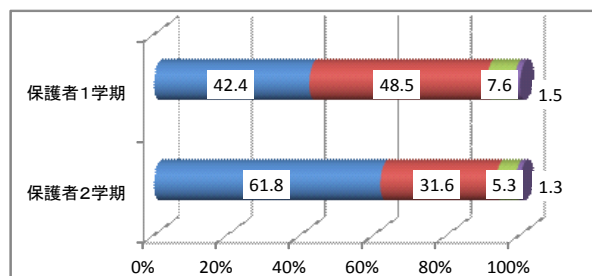
庭学習が多い生徒が固定化していることが気になります。このことは、家庭と協力して解決していくようにしたいです。

毎日、学校へ元気に登校できましたか。

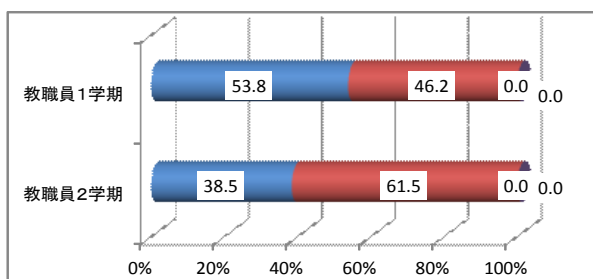
【生徒】



【保護者】



【教職員】



■ できた ■ おおむねできた

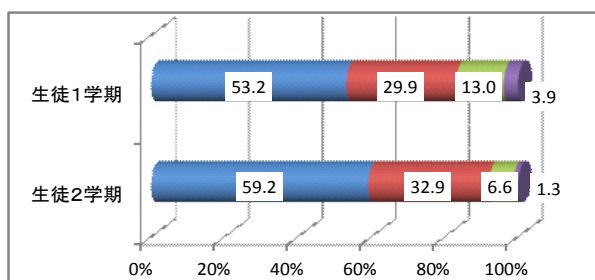
■ ややできなかった ■ できなかった

「元気に登校できた」という質問に対して、全体では90%以上が「できた(4・3)」の回答をしています。1学期と比べ「4」に回答している生徒・保護者が増えています。学校へ元気に登校できていることは大変うれしいことです。しかし、生徒の結果から「できなかった(2)」が若干増えていることが気になります。2学期は、行事が多く学習との両

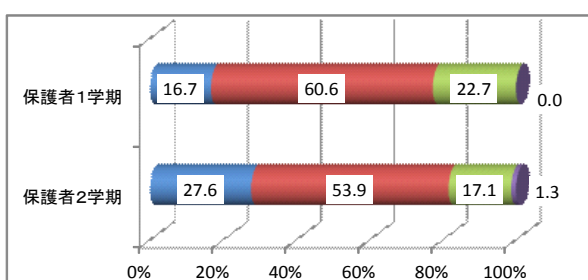
立や2年生にとっては生徒会活動の引き継ぎ等、生徒にとって体調的にも精神的にも疲労感を感じたのではないかと思います。怪我や病気で元気に登校できないのではなく、心の不安から登校できていないのであれば、早急な手立てが必要だと感じています。

学校生活で、活躍する場はありましたか。

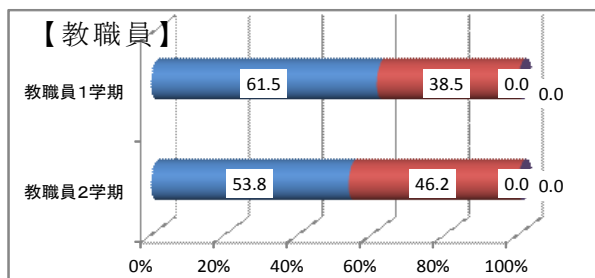
【生徒】



【保護者】



【教職員】



■ あった ■ おおむねあった

■ やや少なかった ■ なかった

2学期は、学校行事や学年行事等、生徒の活躍する場が多くありました。生徒が活躍する場を意図的に作り、多くの生徒が活躍できたと感じたことはうれしいことです。生徒は、92.1%が「あった(4・3)」に回答しており、1学期に比べて、9%上昇しました。特に2年生は、生徒会活動の引き継ぎもあり20%上昇

していることから、生徒の気持ちの変化と教職員の意図的な場の設定や支援が、結果につながったと考えられます。保護者の回答も1学期と比べると4%程度の上昇がありましたが、まだ、81.5%であり、保護者にとって生徒が活躍していると実感できる手立てを考える必要があると考えます。

学校評価に寄せられた意見・要望へ回答（抜粋）

- 1, 帰宅が遅くなるとき、家に着くのが真っ暗な時があります。歩いて帰ってくるので、とても心配です。暗くなる前に家に着くよう帰らせるようにお願いします。

【回答】

日没を考慮して完全下校を設定していますが、不十分な点がありました。秋以降は一日一日、日没が早くなり、暗くなりがちです。完全下校の時刻を再検討すると共に、教職員に完全下校の時間を意識させ、生徒にも速やかに帰宅するよう指導していきます。

- 2, テスト個票に順位があった方が良い。目安になるし、次の目標にもなる。

【回答】

定着度調査は、各教科の学習内容がどの程度定着したかをはかるものであり、人と比べるものではないと考えますので、順位は出していません。本校では、生徒に学力定着度調査に向けてのテスト勉強計画づくりを必ず行わせています。その際、目標点数を決めさせたり、勉強時間をどの程度するか決めさせたりすることをおして、自分自身の取り組みを高めていく指導をしています。

- 3, 自転車通学の範囲を見直して欲しいです。また、遅くなるときは連絡が欲しいです。

【回答】

貴重な御意見ありがとうございます。本校では道路事情や生徒の通学にかかる時間的な負担などを考慮し、「通学時間 30 分程度」で自転車通学許可範囲を設定しています。よって、大きな道路事情変更などがない限り、見直す予定はありません。なお、自転車通学には、大きな危険が伴います。そこで、本校では「自転車通学許可願」を提出し、条件を満たした生徒に対してのみ、自転車通学の許可をしています。

帰宅時間が遅くなることについては、1 の回答にもあるように、完全下校の設定は日没を考慮して設定しています。しかし、委員会活動や行事の準備等、学校での活動で遅くなる場合があります。事前に分かっているものに関しては、お子様をとおして連絡するようにしていますが、突然のものに関しては、御家庭に、直接、電話等で連絡します。

- ◆その他の意見についても全職員で共有し、今後の教育活動および次年度の活動計画に生かしていきます。貴重な御意見・御要望をお聞かせいただき、ありがとうございました。